

鎌倉市市民活動センター（NPOセンター）」の 望ましいあり方に関するアンケート

～分析まとめ～

アンケートの概要

センターの在り方検討アンケート 概要

■アンケート調査の目的

- ▶ 本市では、市民活動団体等が円滑に活動を進めるために、中間支援組織による「ネットワークづくり」や“よりよい成果へ導く”ための「コーディネート機能」の充実により、市民活動の更なる促進に努めることが重要と捉えている。
- ▶ そのため、主に市民活動を行っている市民の声をもとに、現状の中間支援組織である市民活動センターの評価や、今後の望ましいあり方を段階的に検証し、機能向上を図るために本アンケートを実施した。

■実施期間

- ・ 令和4年6月27日（月） から 令和4年9月30日（金） まで （約3か月間）

■対象者

- ・ 「市内在住・在勤・在学の方」 / 「市内で市民活動を行っている方」 全ての“個人”が対象

■実施方法

- ・ e-kanagawaを用いた電子回答
- ・ 紙アンケートを各所へ配架（NPOセンター鎌倉・大船、地域のつながり課、各支所）

■周知方法

- ・ 鎌倉市民活動センター登録団体（約350団体）へ案内文の送付 及び メールによる周知
- ・ ふれあい懇談会に参加された自治会町内会長へチラシの配布
- ・ 市公式SNS（LINE、Facebook）による周知
- ・ 鎌倉市ホームページ／広報紙

「鎌倉市市民活動センター（NPOセンター）」の望ましいあり方に関するアンケートのお願いについて

【アンケートの目的】

- ▶ 鎌倉市では、地域課題の解決や、多様化する市民ニーズを満たすために、これまで行われてきた市民の自主的な社会貢献活動である「市民活動」のさらなる活性化を推進しています。
- ▶ 市民活動団体等が円滑に活動を進めるには、団体への適切なアドバイスや、関係機関へつなぐ役割を担う「中間支援組織」の質を高めていくことが重要です。
- ▶ さらに、各市民活動団体等が、市民ニーズを満たし、地域課題を解決していくためには、これまでの中間支援組織の役割に加え、「ネットワークづくり」や“よりよい成果へ導く”ための「コーディネート機能」の充実によって、市民活動の更なる促進に努めることが重要と本市では捉えています。
- ▶ また、オンライン化していく社会や、鎌倉市役所の本庁舎移転やその跡地活用といった観点からも、現在の中間支援組織を担っている「市民活動センター」のあり方が今後大きく変化し、時代にあった役割が求められます。
- ▶ こうした経緯から、市民等の皆さまの声をもとに、現状の中間支援組織である市民活動センターの評価や、今後の望ましいあり方を段階的に検証し、機能向上を図るためにこのアンケートを実施します。



神奈川県電子申請システム
E-KANAGAWA

【アンケートの方法】

- ・ できる限り右のQRコードから電子回答にご協力ください。
- ・ 回答時間はおおよそ10分程度です。
- ・ アンケートは「市内在住・在勤・在学の方」及び「市内で市民活動を行っている方」すべてが対象です。
- ・ 団体のメンバーや自治会町内会内の役員など、ぜひお近くの方や心あたりのある方へも周知及び回答のご協力をお願いします。
- ・ アンケート用紙は、市民活動センター（鎌倉・大船）、鎌倉市役所地域のつながり課（第3分庁舎）、各支所でも配布しており、回答用紙の提出も受け付けています。
- ・ 回答は個人が特定できないように集計します。
- ・ アンケートの回答期限は9月30日（金）まで。



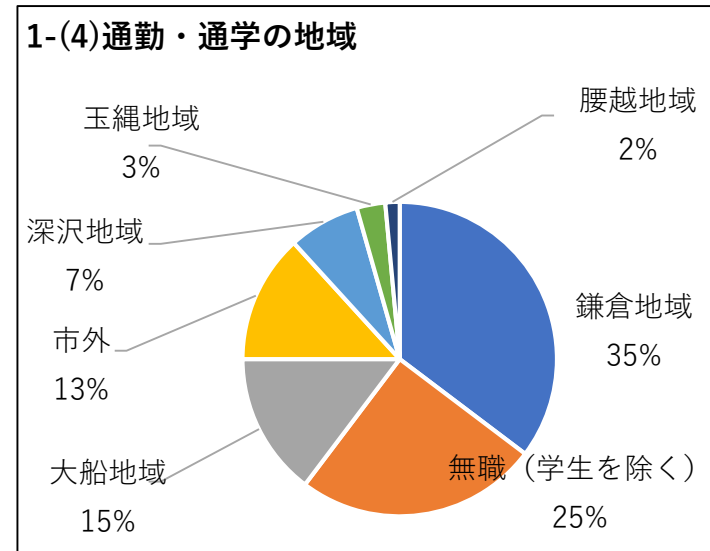
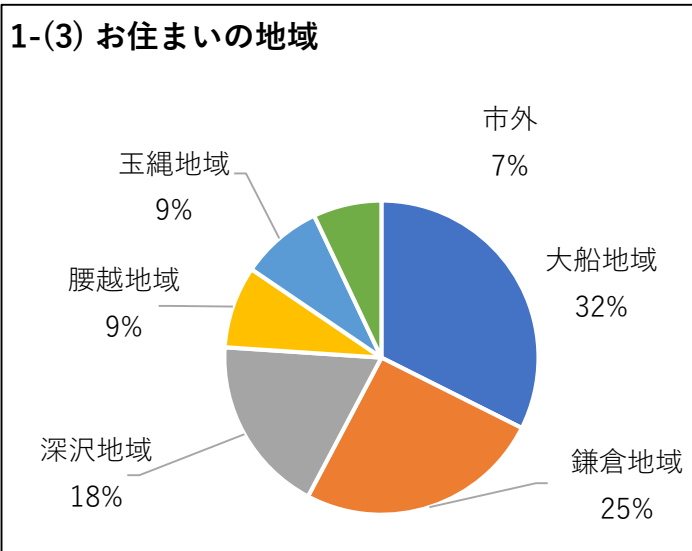
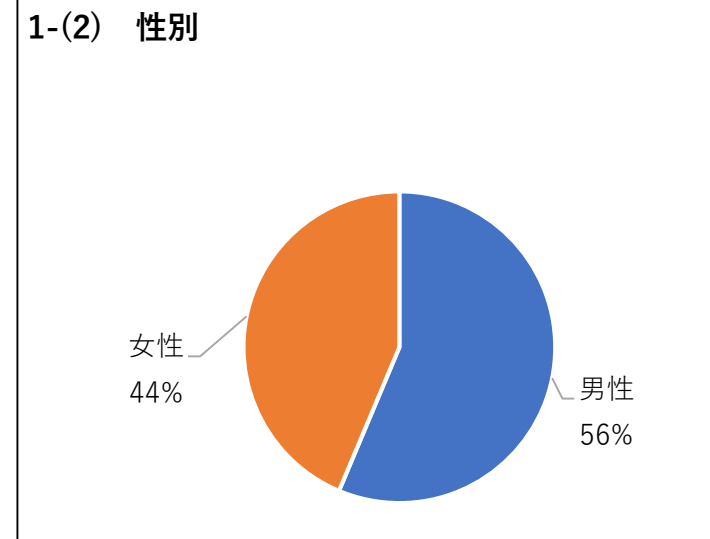
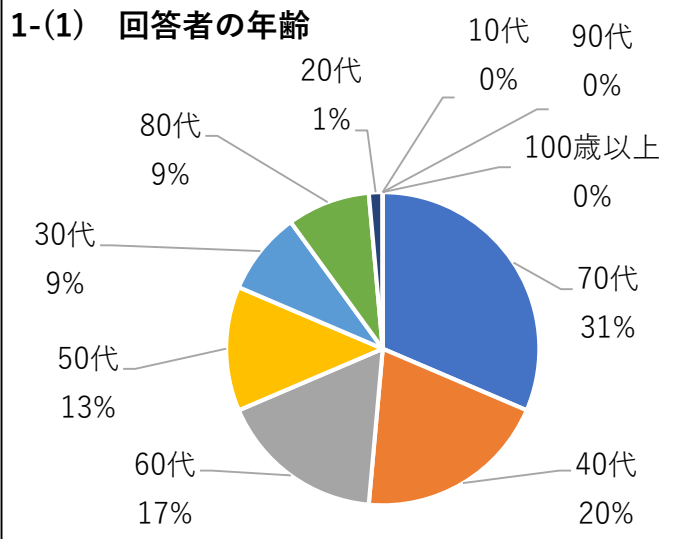
【アンケートに関する問い合わせ先】

鎌倉市 地域のつながり課
0467-23-3000（内線2311 担当：本多まで）

配架したアンケートの表紙

センターの在り方検討アンケート 概要

合計回答数：71件



分析結果のポイント

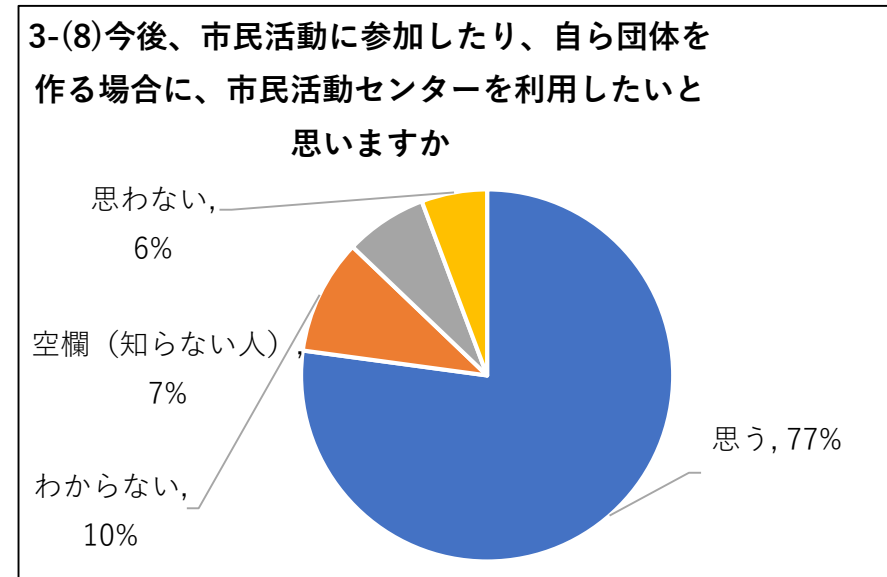
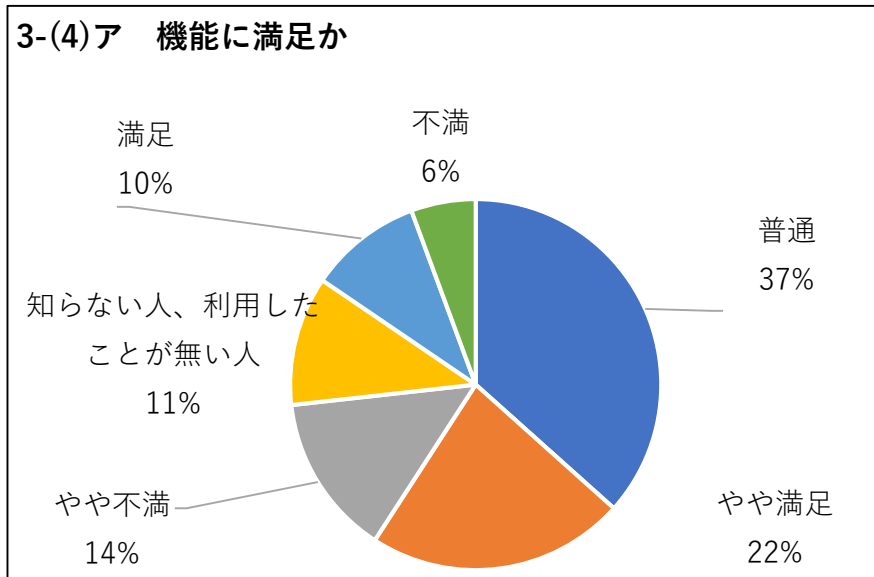
センターの機能に対する満足度は普通からやや低水準だが、 中間支援組織としての需要はある

★分析内容

現在のセンターの機能に対し、“やや満足”以上と回答したのは約3分1にとどまっているが、約8割が今後もセンターを利用し続けたいと回答している。機能の満足度としては普通以下の低水準にとどまりながらも、活動の場としての需要があることが読み取れる。

★推察

市民活動を行っている市民にとって、公的な支援を受けられることができる場所は少なく、中間支援組織の存在は当事者にとって重要であることが推察される。センターの機能に対し、最も多い回答は「普通」ではあるものの、“もっとセンターを利用したい”と思ってもらえるような、本質的なニーズや課題を本アンケートやワークショップ等で分析し、本当に望まれている機能を検討する必要がある。



センターの利用者は、相談・交流等、他者の知見や意見を求めている

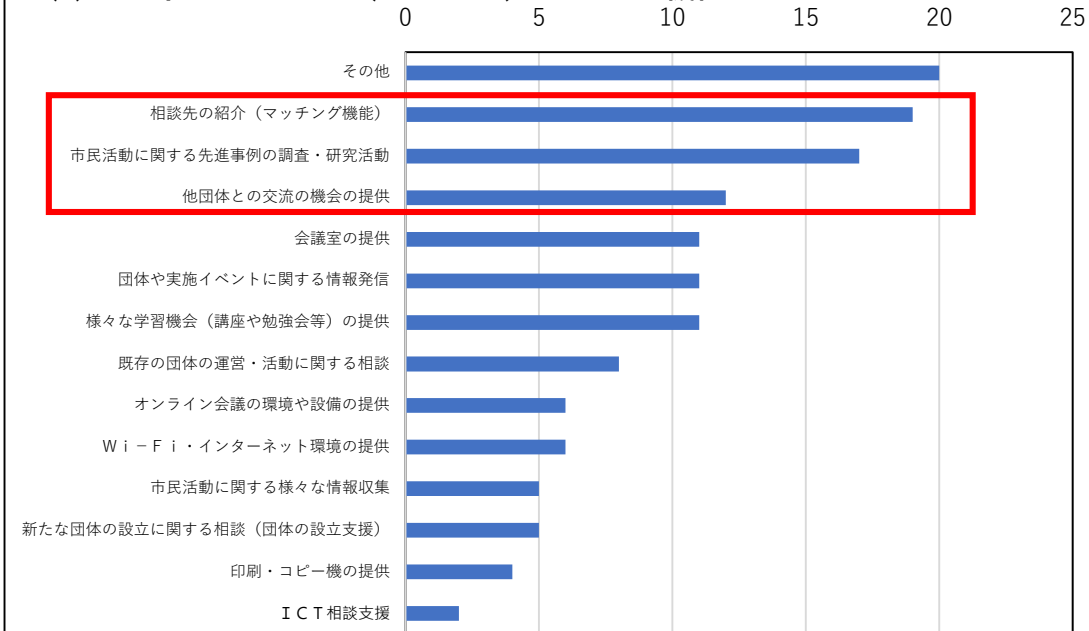
★分析内容

センターの機能で、“不足している（していた）と感じるもの”の回答では、「相談先の紹介」、「先進事例の調査・研究活動」、「他団体との交流の機会の提供」が上位を占めており、かつ、“今後充実させてほしい機能”の回答でも同様の項目が上位を占めていたことから、センターの利用者は市民活動を行ううえで、他者の知見や経験意見などを求めている傾向がある。

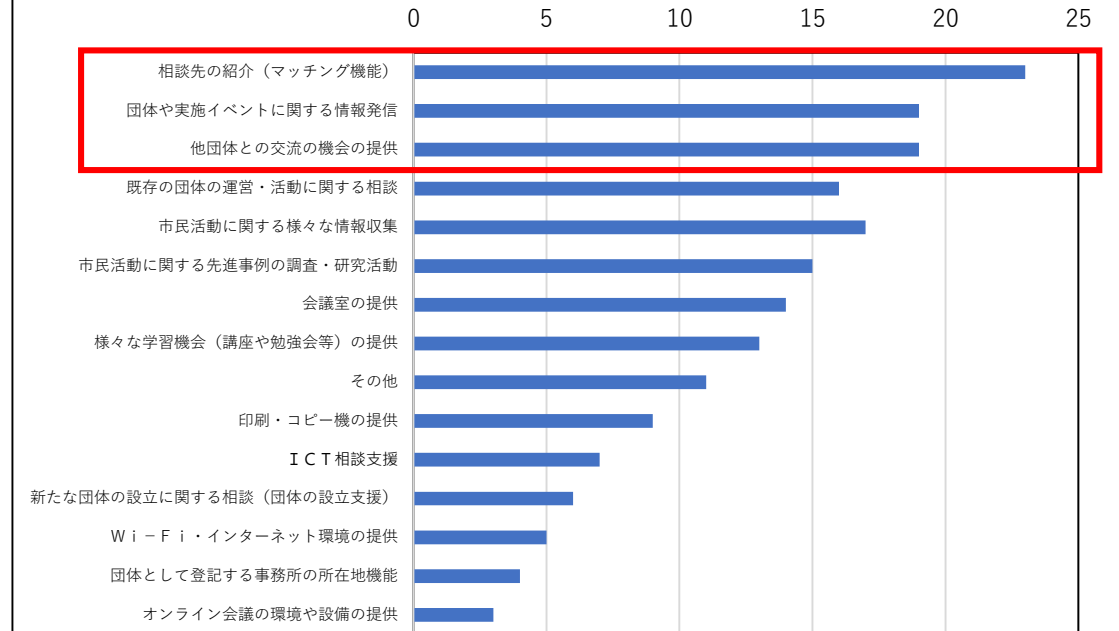
★推察

自由記述では、センターによる具体的なコーディネート機能を求める声もあることから、今後、センターには団体からの相談に応じて、適切な回答をできる人物の配置や、専門機関や経験者などにつなげることができるマッチング機能などの、ソフト面の拡充が重要ではないか。

3-(4)オ 不足している（していた）と感じる機能



4-(1)ア 充実させてほしい機能



市民活動団体の“活動の場” そのものは求められている

★分析内容

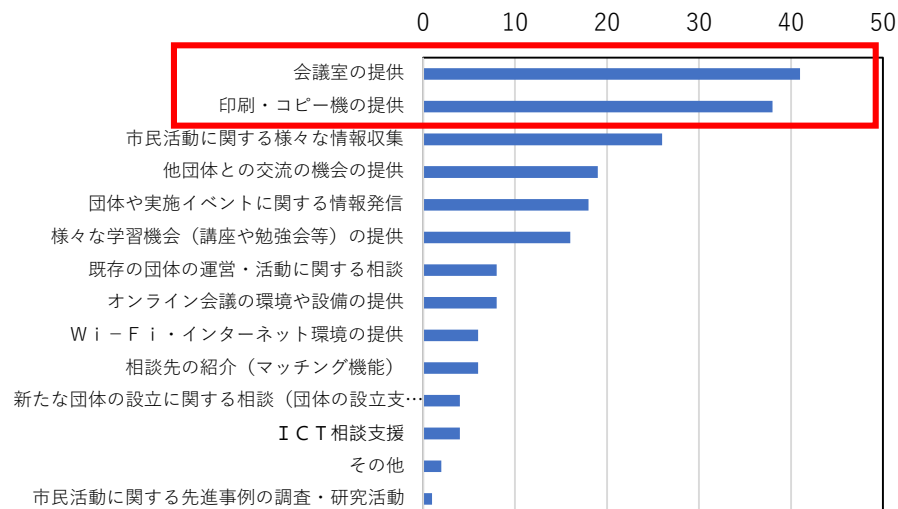
“普段よく利用しているセンターの機能”の回答として「会議室の利用」が最も多く、次に「印刷・コピー機の提供」と挙げられており、実際に団体が活動を行う場としてもセンターが最も多い。コロナ禍によるオンライン会議も活発になってきている現代でも、利用者の「活動の場そのもの」のニーズが読み取れる。

★推察

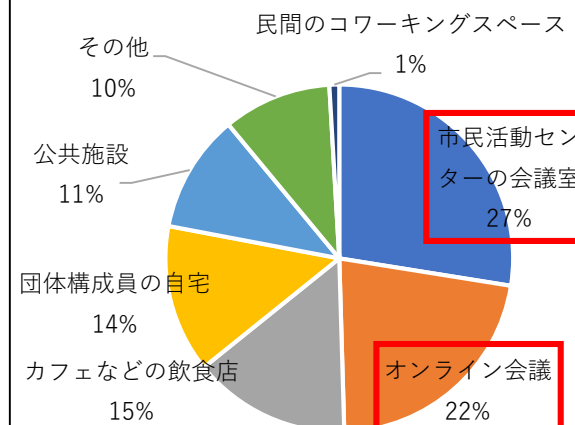
“今後も市民活動センターを利用したいと思うか”という回答に対し、約80%が肯定的であることに加え、現在使われている機能として最も多いのが「会議室の利用」であることから、今後も活動の場として会議室のニーズは高く推移していくことが想定される。ソフトの充実が求められる一方で、活動の場の提供も軽視はできない。

自由記述でも、会議室だけではなく、拠点としての重要性に触れる回答があることから、実際のニーズに沿った場の提供を行うため、ワークショップ等の意見交換を実施し、市民の具体的な声を聞いて深堀していく。

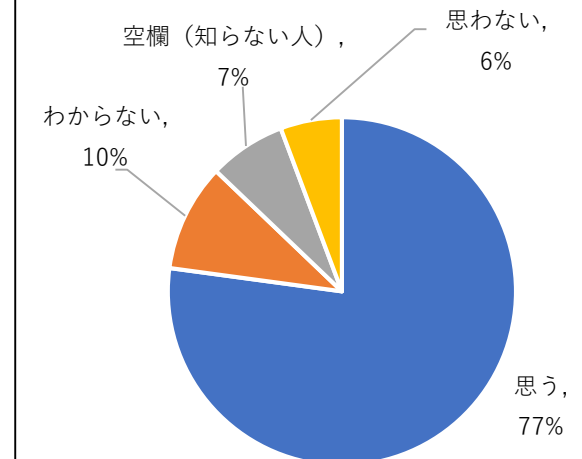
3-(4)ウ よく利用する（していた）機能



5-(3) 会議をするとき、
普段どのような施設を利用するか



3-(8)今後、市民活動に参加したり、
自ら団体を作る場合に、市民活動セ
ンターを利用したいと思いますか



鎌倉・大船の両センターの統合については、 具体的なイメージが持てない

★分析内容

両センターの統合に支障があるかの質問に対しては、「わからない」という回答が多く、統合することによって発生するメリット・デメリットのイメージを持つことが難しいことが読み取れる。

★推察

今回の質問では、「相談窓口を一つに統合した場合に支障があるか」という聞き方をしているが、今回のアンケート結果では、センターの相談機能が不足していることが読みとれることから、そもそも相談機能の統合に関して具体的なイメージがもたれず、わからないという回答が多いのではないかと推察できる。

一方で、センターは自らの活動拠点の近くにほしいという声も自由記述に記載があることから、慎重に検討する必要があるが、なぜ近くに必要なのか、本質的なニーズを今後深掘していく必要がある。（近くにあれば誰だって嬉しい。）

今後、統合を検討する場合には、統合もしくは新設した場合のセンターの具体的な機能の説明とともに、市民のニーズ、課題を確認する必要がある。

